

南北鉄道連結に対する、在外同胞の役割と可能性

NPO法人 三千里鐵道 理事長 都相太

はじめに

三千里鐵道は、二〇一〇年六月一五日に発表された「南北共同宣言」をうけて発足した、在日同胞と日本人を主体とした市民運動団体です。

南北両首脳が直接会い、抱擁し、協議した宣言文だけに、在日は、その成果に多少の戸惑いを感じながらも、七・四共同声明、また九一年の南北基本合意書と違った確実性を実感しました。

在日は、ありていに申せば母国との関係に「非常に疲れた存在」であります。地理的に母国の隣に住む在日は、母国のありように直接影響されます。母国の分断に象徴される半世紀に及ぶ冷戦構造は、在日のコミュニティを分断し、破壊したと言っても過言ではないでしょう。

在日は母国との関係に「非常に疲れた存在」と申しましたが、日本という国土に住み、マイノリティーとしての困難を克服しつつ、日本の文化を吸収し、家族の生活を支え、人間としてまた民族としての主体性を確立して行かなくてはなりません。

存在が民族そのものであった在日一世は、解放後半世紀以上を経過した今、その姿はほとんど消えかけています。

一世が持ち続けた、民族と故郷に対する愛は必然的に変質を余儀なくされ、二世以降の在日は、母国との関係においても日本との関係においても、再構築を迫られているのが現実であります。

在日にとっての南北共同宣言

このような意味において、六・一五南北共同宣言は、在日と母国とのありようを考えさせてくれた、非常に重要な契機になりました。

第一は、在日にとって、真の意味での冷戦の崩壊であり、第二は、母国と民族に対する愛の再構築であります。

それでは「冷戦の崩壊」によって半世紀の冷戦を在日は克服したか、という問いに対して、答えは残念ながら"否"というべきでしょう。

一九九〇年の世界的な冷戦構造の崩壊は、在日に何をもたらせたのかを検証すれば明らかです。それは在日の組織の空洞化と求心力の低下であります。それを「液状化」とであると表現する識者も多くいます。

在日の価値観の多様性と共に、冷戦構造に立脚した半世紀に及ぶ組織の存在意義を問いただされていっても過言ではないでしょう。

また、日本における在日金融機関の破綻と狂牛病問題は、構造的不況という日本の現実の中で在日を追いつめています。

南北共同宣言後の対談で、ある大学教授は「一方で南北の政府が首脳会談をしたからといって民団と総聯が話をしましょうというのではだめだ。在日は自立しないとイケない。むしろ逆に、民団と総聯がいろいろな交流を進める中で、それが本国に影響を与えるような役割を持つべきだ」と述べていますが、冷戦構造に立脚してきた組織の総括こそが重要な問題であると考えています。南北共同宣言発表後二年近く経過しても、話し合いすら進展していないことが、何よりの証左で

はないでしょうか。

共同宣言以降、瞬間的に燃え上がった在日統合の熱意は、様々な組織力学と政治力学の前で、急速にしぼんでいったのが実情であります。

朝鮮半島の南北問題による「従属変数」とまで言われている在日は、民族金融機関の破綻のような内なる問題に対しても、南北共同宣言のような、母国の平和と統一問題に対しても、十分に対応していないと言っても過言ではないでしょう。

在日にとっての三千里鐵道

このような状況の中で発足した三千里鐵道は、母国の鐵道連結計画に「具体的な形で寄与」しようとして発足しました。

組織力も資金力もない状況でスタートし、地域的には日本列島の中程になる名古屋を中心として仲間が集まりました。在日の運動の歴史の中で、出発点にはなりにくい地域からの発信でした。

発足時の原則は、三千里鐵道の運動を推進する上で思想・信条・人種・国籍・性別などの差異を徹底的に尊重する姿勢を貫き、現在もその姿勢にいささかの変化はありません。

南北共同宣言は、自然と言うべきか必然と言うべきか、われわれを南北それぞれ2 Km 計4 Kmの非武装地帯に立たせてくれました。

冒頭に、「具体的な形で寄与」という言葉を使いましたが、この言葉には在日と母国との関係についての反省が込められています。

韓国との関係に例を挙げれば、韓日会談以降、在日組織と本国政府との関係は健康的なことばかりではありませんでした。このことは多くの在日が知っています。いまだ解決されていない問題もそのまま積み残しています。

このような反省を含め、改めて母国との距離を計ろうしているのも、三千里鐵道の運動にかせられた大きな任務であると認識しています。

在外同胞にとって母国は朝鮮半島全体であり、南北を切り離しては考えられないものです。

このことは、南北共同宣言の、最も大切な、最も重要なメッセージである、とわれわれは受け止めています。

今日この席には「朝鮮籍」の同胞も参加しています。

しかし、三千里鐵道の副理事長の一人は参加していません。韓統連東海の代表であることが、彼をして断念せざるを得なかったのです。

民族全体の和解を推進している現在、非常に残念な事と言わざるを得ません。

この運動に在外同胞すべてが参加できるように、本国との往来を無条件にできるように、本国政府が対応してくれることを願っています。

三千里鐵道の経過と現況について

三千里鐵道では、その目的として 非武装地帯を平和と統一と環境保全の象徴に 非武装地帯を心の故郷に 非武装地帯の鐵道建設を私たちの手で、という三項目を掲げ、具体的行動として、次のように取り決めました。

- 1．非武装地帯の南北鐵道の連結計画に参加するための建設資金としての寄付金を募る。
- 2．鐵道建設にあたって、直接的で多様な参加を検討し、その実現を期する。
- 3．海外同胞及び多くの人々が鐵道建設に携わったことを記念し世界の平和を祈念する

モニュメントを建立する。

以上のことを原則として、活動してまいりました。

共同宣言一ヶ月後には三千里鐵道推進準備委員会を構成し、趣意書をまとめ、民団金宰淑中央団長および総聯韓徳銖中央議長に対し要請書と経過報告を送付し、同年十月には民団金宰淑中央団長より公文が届き、その中で「貴下の祖国統一を願う熱情に敬意を表します。さて、貴下からの要請につきましては、本団と朝鮮総連との対話が進んだ時点で双方の協議事項になるよう前向きに検討いたしたく思います」と述べていました。

次に本国との関係について申し述べたいと思います。

三千里鐵道では本国との関係も当然な事ながら重視してきました。

一昨年八月には、社民党土井たか子委員長が訪韓時、三千里鐵道の資料一式を託し、金大中大統領に伝達されました。

韓国大統領府青瓦台にいく機会をもった三千里鐵道代表は、一昨年十月四日、直接大統領に会い、そして秘書官を通じ資料を届けました。

また、一昨年十月十五日には、共和国金正日国防委員長及び韓国金大中大統領に、枕木提供の「申入れ書」を送付いたしました。

三千里鐵道では、海外同胞の運動としての主体性を維持しながら、本国の市民団体とも連携を強めていきたいと考えています。

母国の市民団体との連携について

三千里鐵道では、昨年六月一七日に「鐵馬は走りたい」と銘うった南北共同宣言一周年記念祝祭を行い、盛況のうちに終えることができました。

韓国より、朴容吉女史、金槿泰民主党最高委員、李富榮ハンナラ党副総裁、李在禎議員、任鐘哲議員、劉元ホ理事、李根燁院長、真寛和尚、他二人の計10名(省略)がかけつけてくれました。

統一マジ劉元ホ理事のご尽力に感謝しつつ、母国の熱意と暖かさに心打たれました。

三千里鐵道こそがおおいに励まされたと考えています。

今回の募金伝達行事にも、統一マジのお力添えがあればこそなしたことであります。改めて心よりの感謝を申し上げます。

今後とも、それぞれの主体性・自主性を保ちつつ、関係の強化を図っていきたいと考えています。

在外同胞の役割と可能性

昨年三月一日より開始した募金活動は、すでに千二百名以上の人たちの協力を得ることができました。募金総額は千五百万円を超えました。

徒手空拳から出発した市民運動としての評価は別に譲るとしても、今回の訪韓で具体的な寄与ができることは、大きな喜びであります。

また、この運動には、実に多くの日本人の協力を得ています。改めて、日本の友人たちの理解と協力に感謝し、近い将来には必ずピョンヤンに行くことをお約束します。

われわれは、三千里鐵道の運動が、これまでの海外同胞運動にはなかった新しい役割と可能性を持っていると信じています。

これまで海外同胞は、母国の要請にさまざまな形で応えてきました。在日に限って言えば、民

団は韓国の要請に、総聯は共和国の要請に、応えてきました。その要請には、経済的なこともありましたが、きわめて政治的、安保的なものもありました。結果的にそれは、在日の分断をより一層激化させ、同胞コミュニティを破壊することとなりました。

分断によってもたらされた民族の苦悩は、分断祖国に住む同胞ばかりではなく、われわれ海外同胞も共有しているのです。

南北共同宣言を受けて、非武装地帯に立って南北の祖国を見渡した時、民族の苦悩のすべての原因が、まさに軍事境界線にあったのだということが分かりました。

三千里鐵道の運動は、南北祖国を等距離に見ようとする運動です。いずれに偏することもなく韓半島全体を祖国として愛し、双方の歩み寄りを願い、平和定着を願い、相互の交流が活発化することを願い、いつの日か統一することを祈る運動です。

そのことで、ひいては、祖国分断によって破壊された在日同胞のコミュニティを再創造しようという運動です。

その象徴的事業として、京義線をはじめとする南北に分断された鐵道の連結建設工事のうち、非武装地帯の鐵道建設を、海外同胞と韓半島の平和と統一を願うすべての人々の手で成し遂げようという大きな夢を持っています。

韓国の民主化は、在外同胞に民族としての勇気と誇りを与えてくれました。同時に民族としてのエネルギーを、われわれに注いでくれました。

南北共同宣言は、われわれを、完全でないにしても母国の冷戦のくびきから大きく解放してくれました。

南北両政府は、朝鮮半島の平和と統一のために、在外同胞を、南北を見渡せる非武装地帯に結集させてください。われわれを同胞というならば、南北両政府と朝鮮半島全体に住む人々は、六百万海外同胞を平和の盾として、分断の象徴である非武装地帯に結集させてください。

朝鮮半島の統一のための陣痛を、海外同胞にも積極的に分け与えてくれることをお願いし、われわれもその一端を担うことを約束します。